



被爆体験の伝承者

被爆体験のない者が70年前の地獄絵を生き抜いた被爆者の人生を背負う。被爆者の平均年齢が80歳を超え、証言者が少なくなると、広島市が「被爆体験伝承者」を育成するユニークな取り組みを進めている。



「被爆者の方からは『事実を淡々と伝えてくれ』と言われています。伝承者の一人で広島市の主婦、峯岡紀子さん(56)は、爆心から1キロで被爆した男性の

人生背負う重い役割も

「人生を背負う」ことに決めた。

伝承者は研修中、約20人の被爆者の体験をじかに聞き、誰の被爆体験を伝承するかを決める。峯岡さんは、

原爆資料館でガイド役のボランティアと一緒にしていた知り合いの男性被爆者を選んだ。伝承者の重責を感じる半面、被爆者の体験を語った後、聴衆の児童から

「原爆はいけんね」といった感想を聞くと、エネルギーが湧くと話す峯岡さん。近親者にも被爆者がいる。

「被爆者には誰にも話したくない体験がある。差別体験がそつだ。見せたくないケロイドもある。一方、伝承者はもともと人前で話すことをいとわない人。むしろ話したがりの人も多い。

そのギャップをどう埋めるか」

原爆資料館の元館長で被爆者の原田浩さん(76)は伝承者制度の問題点をこう指摘する。

広島市によると、研修を終えた伝承者は50人で、現在210人が研修中。家族に被爆者がいない人も多く、県外からの応募者も少なくない。背負う人生が複数の伝承者もあり、最多で7人の被爆体験談を語り継ぐ伝承者もいる。

他人の被爆体験をどこまで伝承者が自身の内面で消化し、聴衆から称賛されてもおこることなく、私生活の語り部となっていくか。原田さんは、まだまだ克服すべき課題が多いとみている。

2015年8月13日 朝刊

①「被爆体験伝承者」とは、どのような人でしょうか。

[]

②伝承者が克服すべき課題は、どんなことでしょうか。

[]

③あなたが先人から受け継ぎ、後世に伝えたいことはどんなことでしょうか。

[]

年 組 名前

(中学校・高校 道徳・総合、教員・保護者)